

熊本県

関係機関一丸となった担い手確保対策の取組

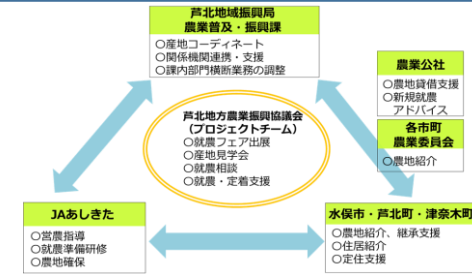
担い手確保

【基本情報】

あしきた

芦北地方農業振興協議会

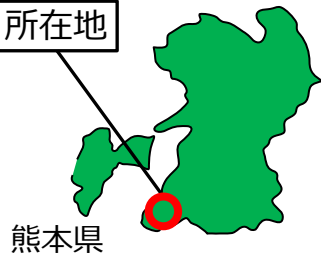
- 所在地：熊本県芦北地域
- 構成機関：熊本県芦北地域振興局、水俣市農業委員会、芦北町農業委員会、津奈木町農業委員会、水俣市、芦北町、津奈木町、JAあしきた
- ホームページ：<https://ashinoushinkyu.jp/>



【取組の概要】

- 就農相談から定着まで、切れ目のない就農支援体制の構築
- 具体的には、「リリーフ園」による実践研修、就農農地斡旋等

所在地



熊本県

背景

- 芦北地域は、土地面積に占める耕地面積の割合が6.8%で平坦地が少ない中山間地域。
- 地域の基幹産業である果樹栽培が、農業の産出額の5割以上を占め、不知火類（デコポン）や甘夏を軸に産地を形成。
- 近年、農業者の高齢化や後継者不足により、担い手の減少が著しく進展し、産地の維持が危ぶまれている状況に危機感。
- 柑橘栽培の技術習得や植栽後の未収益期間等、果樹特有の課題が就農のハードル。

取組

- H30年度に協議会内に「新たな担い手確保対策プロジェクトチーム」を設立。
- 協議会HPやSNS等を活用した情報発信、就農フェアへの出展、産地見学会・体験会の開催、新規就農お試し研修など県内外への啓発活動を積極的に実施。
- JAが離農や規模縮小する農家から優良な空き園地を引き継ぎ、新規就農者に継承する「リリーフ園地制度」をH30年度に確立。就農時に就農園地として斡旋する取組を実施。
- 就農に向けた準備研修として、最大2年間の長期研修、毎月5回程度の座学講座を実施。
- 就農希望者に向けて、空き家バンク等を活用した住居の紹介を実施。
- 就農後は、園地の巡回指導などの技術支援や簿記記帳指導などの経営の安定に向けた支援を実施。

成果・展望

- 市町の枠を超えた切れ目のない就農支援体制の構築により、担い手確保・育成に大きく貢献。R1～5年度までに22名の長期研修や新規就農支援し、リリーフ園を含めた820aの引継ぎを新規就農者等に実施。
- 新規就農希望者に継承可能な園地情報の収集とリスト化とともに、リリーフ園の維持管理に係るコスト低減について今後検討が必要。



就農者及び研修生で園地巡回



SNS等を活用した情報発信